

大いなる飛躍へ

 JA上川中央

初春



2014

NO.70

発行・上川中央農業協同組合

愛別町本町125

Tel(01658)6-5311

URL <http://www.ja-kamikawa.or.jp/>

編集・宮農振興課



# 新年にあたり

上川中央農業協同組合  
代表理事組合長

新井光雄

新年あけましておめでとござい  
ます。組合員の皆様には、希望に満  
ちた平成26年の新春をご家族ととも  
にお迎えのこととお慶び申し上げま  
す。

昨年の農業生産は、まさに異常気  
象にみまわれた1年でありました。  
春の低温寡照により融雪が平年より  
1週間程遅れましたが、6月からは  
一転し好天に恵まれ、豊作の出来秋  
に大きな期待を高めました。しかし、  
夏以降の猛暑・豪雨等の影響を受け、  
収量や品質低下がみられた作物もあ  
り、生産者の皆さんには、ご苦労の  
多かつた1年でありました。

昨年度の事業推進にあたっては、  
第5回通常総会において第2次中期  
経営3カ年計画のご承認を頂き、J  
A経営理念に基づき「組合員及び地  
域の多様なニーズに対応した事業機  
能の再編と強化」「健全な経営体の  
育成及び確立」「地域農業の振興と  
安定した農業経営の実践」を基本姿  
勢として取り組んでまいりました。

実践2年目を迎えるに当たり、実効  
ある体制整備と機能強化を図り、組  
合員の期待に応えられる高度な事業  
機能を有する組織づくりを目指して  
まいりますので、なお一層のご理解・  
ご協力をお願いいたします。

さて、私たちは、これまで3年に  
わたってTPPから食と暮らし・い  
のちを守る運動を展開してきました  
が、政府による情報開示が充分でな  
いなか、輸出国が重要品目の関税撤  
廃を強く求めていると報じられ、な  
し崩しのな議論が行われるのではな  
いかと、生産現場の不安が高まって  
います。加えて、米の生産調整や経  
営所得安定対策の性急な見直しに向  
けた動きにつきましても、TPP交  
渉合意に向けた農業対策の一環であ  
るとの報道もされ、農業者の不安感  
と政治不信は増大の一途を辿ってい  
ます。引き続き、JAグループ北海  
道の一員として、更に強い結集を図  
りながら、国として責任ある長期的  
指針を明示するよう粘り強い運動を

展開していく必要があります。

また、消費税が4月より現行の  
5%から8%へ引き上げられるなど  
農家経済への影響が懸念されること  
から、現場の様々な課題・問題点を  
能動的に解決していく現場力の向上  
を図ってまいります。

今年は、十干十二支でいう「甲午  
(きのえつま)」の年です。前回の甲  
午(昭和29年)の洞爺丸台風に代表  
されるように、この干支のエネル  
ギーは制御が難しいようです。上手  
に暴れ馬を乗りこなすか…落馬して  
大怪我をするか…

JAへの結集をさらに強め協同運  
動を強力に展開することにより、こ  
の難局を打開し、共に未来を切り開  
きましょう。

最後に、組合員並びにご家族皆様  
方のご健勝と、豊穡の出来秋を迎え  
ることが出来ますよう心からご祈念  
申し上げます、新年のご挨拶とさせてい  
ただきます。

# 謹賀新年

代表理事組合長	新井光雄
代表理事専務	野口昇
理事	久保田幸夫
理事	久米啓一
理事	辰巳真
理事	大村正利
理事	土屋陽一
理事	清野英人
信用担当理事	山中護
兼金融共済課長	松嶋光章
代表監事	多羽田光雄
監事	関行男
員外監事	奥山勲
参事	木村悦明
内部監査室長	奥智尚
総務課長	奥山春彦
営農振興課長	須賀成浩
営農販売課長	福島慶喜
購買経済課長	鈴木隆之
生活課長	井上裕也
上川支所長	端場誠二



# 平成二十六年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会  
会長 飛田稔章

組合員並びにJA役職員の皆様方には、希望に満ちた平成26年の新春を迎えられますことを心よりお慶び申し上げます。昨年、北海道農業は、天候不順により一部地域で農作業や生育の遅れが生じ、台風や大雨等の被害にも見舞われました。そのような中、各種課題を克服しながら、一年間の営農にご尽力されたことに對して、改めて敬意を表します。

平成25年は、国内外ともに、まさに激動の年でありました。TPP交渉につきましては、3月の交渉参加表明以降、交渉参加反対のもとで、関係機関団体と連携をはかりながら、各種運動を展開いたしました。かねてより懸念していたとおり、情報開示が極めて不十分な中、秘密裏に交渉が進行し、予断を許さない不透明な状況が続いておりますが、自民党並びに衆参農林水産委員会の決議を順守し、状況によっては脱退も辞さない覚悟のもと、それぞれの国の事情に十分配慮した対応がなされるよう、政府と党への強力な働きかけと併

せ、国民世論形成に向け粘り強い運動を展開していく必要があります。

過般、政府は我が国農政の柱のひとつである米政策を大きく転換し、それに伴い各種助成金体系や経営所得安定対策の見直し、日本型直接支払制度の創設等がなされました。短兵急な政策転換に對して、生産現場では不安と混乱が渦巻いておりますが、改めて生産現場における取組み状況を十分検証しながら、生産者が意欲と将来展望を持って経営展開ができるよう、より実効性のある仕組みを確立していくことが重要であります。また、政府は成長戦略の実現に向けて、農業・JA改革を課題のひとつに取り上げ、産業競争力会議や規制改革会議等において関連する議論を行っております。これら規制改革の動きに関しては、農業の役割や生産現場の実態に関する基本的な認識が十分でないことに大きな原因があり、北海道のような農業専業地帯の実情やJAグループの取組み状況等を十分踏まえた議論がなされ、

本道農業の持続的発展に資するような政策が確立されるよう、働きかけを強化していく必要があります。

平成24年11月に開催した第27回JA北海道大会において、「持続可能な北海道農業の実現」と「次代を担う協同の実践」について決議致しました。平成26年度は実践2年目にあたりますが、時代の変化を踏まえた中で、JAグループの組織・事業機能の充実強化に向けた自らの取組みを進めつつ、一般消費者に対する情報発信を行いながら、本道農業並びにJAの強力な応援団づくりを進めていくことが重要であります。

国内外の情勢がめまぐるしく変化している昨今であります。今一度足元を見つめ直し、生産者の方々はじめJAグループ関係者の意志と知恵を結集した中で各種課題を乗り越えていくという強い信念と実行力が求められています。現在の地域農業やJAの基盤を築いた我々の先人も、その時々時代背景のもとで、さまざまな困難に立ち向かってきた

ものと存じます。当然のことながら、JA・連合会も「組合員の営農と生活を守り向上させる」という目的を踏まえ、最大限の努力を傾注していかねばなりません。

さて、過般、日本の「和食」がユネスコ(国際教育科学文化機関)の世界無形文化遺産に登録される見通しであるとの動きがありました。我が国の食文化の素晴らしさが世界的にも認知されたわけですが、そのことは、素材である我が国の農畜産物が評価されたと言っても過言ではなく、日本の食材供給基地である北海道の果たす役割も極めて大きなものがあると存じます。国民の命に直結する農業は、我々の先代が永きにわたり、いささかも変わるものではありません。農業は、国家百年の計に立つた中で、将来にわたり引き継いでいくべき重要な産業であり文化であります。

今年の干支は、午年(うまごし)です。予断を許さない情勢が続いておりますが、馬のごとく力強く、また、さつそうと駆け抜けていく気概をもって頑張りましょう。

結びになりますが、本年が天候に恵まれ実り多い年となりますよう、併せて、北海道農業並びにJAグループ北海道の一層の発展を心よりご祈念申し上げます。新年にあたってのご挨拶といたします。



JA YOUTH

# JA上川中央 青年部



上川支部 部長

## 年頭のご挨拶

新年あけましておめでとございませう。組合員の皆様とともに新しい年を迎えることができましたことを心からうれしく思います。

皆様には、日頃から青年部活動に対し、深いご理解と温かいご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は大雪の影響で春作業が遅れましたが、その後の天候は順調に推移し、一般的に平年並みかそれ以上の出来秋であったと聞いております。これも皆さんの営農努力の賜物ではないかと思えます。

しかしながら、TPP交渉も見えず、農政の各種助成金の突然の大幅な変更など、農業を取り巻く状況は混迷を極めており、農政について大きな転換期を迎えていることは間違いありません。

青年部活動を振り返りますと、昨年はいつもにも増していろいろな方々のご協力をいただいた一年でした。豊稔祈願祭と収穫感謝祭には関係各位の参加をいただき、多くの方々との親睦を深めることができました。また上川町の農業をPRするための看板を完成させることができました。夏には近隣の青年部との交流会を主催し、多くの盟友と交流することができました。12月には副部長の辰巳君がオーストラリアへ視察研修に行き、多くのことを学ぶことができました。

農業を取り巻く環境は依然として厳しく、先の見えない農政やTPPの問題、資材や飼料の価格高騰、また震災の影響など問題は枚挙にいとまがないほどですが、このような深刻なときだからこそ、女性部、組合員関係機関各位の皆様と一致団結し、この農業危機を乗り越えて行きたいと思えます。

最後に、部員一同ならびに組合員、関係機関各位の一層のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



愛別支部 部長

## 新年のご挨拶

新年あけましてあめでとございませう。組合員の皆様と共に新しい年を迎えられたことを大変うれしく思います。皆様方には、青年部事業に対し、深いご理解とご支援、ご協力いただき心より感謝を申し上げます。

昨年を振り返りますと、豪雪の為雪融けが遅く除雪に時間がかかり、育苗期間も低温と日照不足が続く草丈も伸びづらく、圃場も乾かないままの耕起作業になり、春作業の遅れが心配されましたが、移植後からは、高温多照が続く順調な生育となりました。心配された病害虫の発生も少なく済みましたが、収穫期の長雨の影響で悪条件での秋作業となりました。結果的には、上川地区の作況指数は105となり豊作の年でした。

昨年の青年部活動を振り返りますと、夏の愛別神社祭での神輿担ぎからはじまり、町外研修では米麦振興協議会と合同での実施となり、上川農業試験場や新十津川町のJAピンネゆめびりか生産部会との意見交換会、札幌中央卸売市場の視察をし大変勉強になりました。その他、きのこの里フェスティバルの百姓一揆炊き、上青協活動の参加、各会議等にも参加してきました。残念だったのが、道青協主催の海外視察研修と道外視察研修に参加出来なかつた事です。これから農業の分野において課題はとも多いと思えます。TPPを想定し40年以上続いた減反政策の5年後の廃止が決定し、個別所得補償も見直され減額されました。消費増税も間近に控え、経営を悪化させるものばかりです。いかに経費を抑えてより良い農産物を作るかがこれから一層の課題になると思えます。国は、大規模農業化や6次産業化を軸旋していますが、現実はその簡単なものではありません。自分達だけで考えてもなかなか良い方向に進めない事も多く、さまざま関係機関と連携して情報を得て、自分達に合ったやり方を探していかなければなりません。

愛別地区は国営緊急農地再編整備事業も行われる方向に動いています。農家戸数が年々少なくなっている現実の中、担い手問題も深刻ですので早い段階での事業の実施を期待しているところです。

これからは、青年部、女性部、農協職員、関係機関各位の皆様、行政の方々と団結して、厳しい農業情勢を乗り越えていければと思います。

最後に本年が、組合員、関係機関各位の皆様にとって幸多き、実り多き一年となりますよう心からご祈念申し上げます。



# JA上川中央 女性部



上川支部 部長  
辰 巳 明 美

## 新年のご挨拶

新年明けましておめでとございます。例年になく豪雪と雪融けの遅さから、春作業が極端に遅れた昨年でしたが、その後はみるみるうちに持ち直し、終わってみればおおむね昨年並みかそれ以上の作柄に安堵しながら2014年を迎えることができました。しかしながらその一方で、記録的な豪雪に父娘が立ち往生し、自分の命を犠牲にしてわが子を救った、湧別町での痛ましい事故もありました。また、全国的に集中豪雨が多発し、各地で土砂災害が引き起こされました。伊豆大島やフィリピンでは強大な台風によって甚大な被害が発生しました。とりわけフィリピンでの高潮の被害は、東日本大震災直後の被災地の光景を思い出させる凄惨なものでした。

大震災から3年、私たちは自然に対してどれほど無力であるかを痛感したはずですが、これは原子炉の汚染水同様「コントロール」できるものではありません。TPP交渉は、政権交代で歯止めがかかるところかアメリカ力の妥結に旨進する有様で、何を「秘密」にするのかわからない特定秘密保護法案は強行採決され、本当に急ぐべき原発被災者の救済を含む被災地の復興においてなぜその力を発揮できないのか、不信が募る一方です。オリンピック東京招致も素晴らしいこととは思いますが、「東京は安全」という発言や招致活動に合わせたかのような首相の原発視察など、複雑な思いです。

昨年の私達女性部の活動としては、地域の方々から「JA女性部は元気に活動されていますね」と声をかけられる事があります。

それは、大雪荘や病院の花植え、町民文化祭のおこわや大福、あげいもかぼちゃの販売時などやボランティア活動を、部員皆さんの協力の下笑顔でテキパキ行動しているのをちゃんと見ていたからだと思います。

Bブロック研修や視察旅行などで視野を広め、小さな発見をいっぱいしてきました。女性は目の付け所がそれぞれ違うので、バスの中では色んな話が飛び交っています。私たちの活動はいつも同じ事の繰り返しだと思われがちですが、結果はいつも違います。

こうした活動を長年積み重ねていった一つの結果として、上川地区女性協議会が60周年を迎え、節目の年となりました。まさに継続こそ力であり、ひとりでは小さい力をみんなで合わせる事が組織の力となり、どんな情勢にも負けない地域作りにつながるのではないのでしょうか。

本年もより一層強固な女性部活動のために部員並びに各関係機関の皆様へのお力添えをお願いするとともに、末筆ながら新年のご挨拶と代えさせていただきます。



愛別支部 部長  
藤 原 幸 子

## 年頭のご挨拶

新年あけましておめでとございます。女性部の皆様には、ご家族お揃いで健やかに、賑やかに新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。また、常日頃の女性部活動に対し、格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

ことわざに「一年の計は元日にあり」とありますが、物事を成すには初めにきちんと計画を立てなければいけないという教えです。その年の計画は1番初めの1月1日に立てるのが良いということから、元々は「二日の計は朝にあり、一年の計は元日にあり」といったそうです。

家計簿や経営簿を目の前にして「今年こそは!!」と思っている人も多いのでは。特に14年1月1日からは、事業(農業)所得等を生ずべき業務を行う全ての人に記帳業務が課せられます。白色申告の場合、消費税が1番不利になるとされています。

さて、昨年はTPP交渉問題が持ち越しに、40年ぶりに見直された米減反政策問題、消費税が8%に決定、凶悪犯罪など社会を震撼させた事件も多く、農業(農家)を取り巻く環境や経済は厳しいとされ、そのような中で、日本人の伝統的な食文化である「和食」が世界無形文化遺産に登録されたことは喜ばしいことです。四季折々の新鮮な山・海の幸、盛りつけ、正月や節句、盆など節目の伝統食がアピールされました。「おもてなし」を含めた食文化の継承や発信など地域活性化に女性の力は欠かせず、期待は大きいと思います。支部活動の「元気を食をいただきます」をさらに充実させ、組織や世代を超えて伝える取り組みができることを願っております。

そして隣町上川出身の高梨沙羅さんでしょう。スキージャンプで何回も優勝しソチ冬季五輪へ向けて揺るぎない強さを見せています。2月には上川町から大応援団がソチに飛び立つそうです。頑張ってもらいたいものです。

午(つま)年は十二支の第七番目です。「ラッキーマーセブン」馬にまつわることわざも：馬が合う、馬の耳に念仏、馬を牛に乗り換える…。明るく健やかな飛躍の年になることを願っております。

結びに、各関係機関の皆様から、さらなるご協力、ご支援をお願いすると共に、各地区女性部の益々のご発展と、本年が部員のお一人おひとりにとって、素晴らしい1年となりますよう心からご祈念申し上げます。新春のご挨拶とさせていただきます。

TPP  
環太平洋連携協定

# 日比谷野音に3500人 TPP決議の実現を求める国民集会



提供 農業協同組合新聞・JAcom

12月3日、日比谷野外音楽堂（東京都千代田区）で農林漁業関係者ら3500人を集めて「TPP決議の実現を求める国民集会」が開催され、当JAから新井組合長が参加しました。

実行委員長を務めたJA全中の萬歳章会長は、関税撤廃によって第1次産業ばかりでなく医療や保険といった生活に関わる分野にも影響を及ぼす可能性にも触れ、「国民の信頼を裏切るような結果をもたらさないよう強く要請する」と述べました。

農林漁業・消費者の代表7名のリレーメッセージや首相官邸前でのデモ行進などを行い、国会決議の順守や情報開示を訴えました。

## するーライフ

本来、大きな品種が主流であるが、野菜には小さいが故に珍重されるものがある。たとえば人参の小指大はミニキャロットまたはベビーキャロット

(姫人参)の品名である。

莖に実をつける芽キャベツはフランス語でシュード・ブリュッセルと呼ぶ。ベルギーの首都ブリュッセル近郊が原産地であり、それが名前の由来である。そうしてペコロス、小さい玉葱の呼名である。大正時代に輸入され、当時の西欧ではこう呼ばれていたらしい。別名ペティオニオンの商品名がある。

と言って、ミニ野菜の話題をとやかく、ではない。聞き慣れない「ペコロス」に因んだ映画を見たからである。「ペコロスの母に会いに行く」は著者の故郷、長崎で自費出版した本がロコミで話題となり、遂には映画化の運びになったのである。89歳の認知症の母と彼女を支える62歳の息子の物語である。

4コマ漫画を駆使して、ほのぼのと切なく愛情豊かな作品が出来上がったのである。

「ペコロス」は小さい玉葱のような主人公の禿げ頭の別名である。日に日にすすんでいく症状を見かねて、ホームへ入所させる決心をする。帰り際にはいつまでも、いつまでも見送る母親がいた。ただ少し、記憶の線が細くなっただけではないのだろうか。しかし、帽子を被ってホームを訪ねると、母親は知らない人だと怯えてしまう始末である。帽子をとって頭を撫でれば、母親は愛しい息子だと気付いてくれる。「ペコロス」の頭だ。

認知症の母親の頭の中には、昭和初期の幼少期から働いた、厳しい時代の記憶がそのまま残っている。結婚してからの苦い記憶も残っている。長崎に投下された原爆で亡くなった、妹の死も鮮やかに記憶されている。

毎日がみ合った、夫との生活の日々も、鮮明に頭の中に生きている。ただ、過ぎ去ったものと今あるものの線引きが、あやふやになっただけであろう。ペコロスの息子は、そのことに気付く、長崎の「ランタン祭り」に母親を連れて出掛ける。中華街の祭りは最高潮に達していた。気が付けば、人混みの中で母親がいなくなっていた。四方八方を探して行くと、母親は恐らくその昔、姉妹で来たのであろう眼鏡橋に佇んでいた。

スープなどに浮かぶペコロスを見つけたら、今この瞬間にもいろいろな思いの人がいることを、思い浮かべてみて下さい。穏やかな1年であることを切に願いつつ。

※このコラムは連載です。



(C) 2013『ペコロスの母に会いに行く』製作委員会

# 今月の顔

きどばしゆんすけ  
木戸場春助さん  
(伏古地区)

(農) 伏古生産組合勤務

○生年月日	S 58年 4月 23日
○出身地	愛別町
○趣味	ドライブ
○家族構成	妻



### ○農業をしようと思ったきっかけ

実家が農家で長男でしたので、前々から就農することは考えていました。

### ○農業をしてみて思ったこと

思っていたよりも大変でした。ただ、手をかければかけるほど結果となって現れるのでやりがいを感じています。

### ○本人から一言

仕事を覚え、安心・安全な作物を作っていながら今後の農家を支えていきたいです。

“もしもの未来”から見えてくる

## やっぱり大切だね、日本の豊かな食と農 11

離島に人が  
住まなくなって……

### サトウキビの島が無人島に!?



### 島の産業は壊滅的な打撃 国防にも影響!?

日本がTPPに参加すれば、多くの農家が廃業し、農村を中心に耕作放棄地が増え、“限界集落”どころか“限界市町村”が広がるのではないかとさえいわれています。それは、四方を海に囲まれた約7000の島々も同様で、たとえば、砂糖の原料であるサトウキビの生産が盛んな、鹿児島や沖縄県の南西諸島への影響が心配されています。

TPPで日本がすべての輸入品の関税を撤廃すれば、わたしたちの食卓に欠かせない砂糖は、100%安い外国産に置き換わる、と国は試算しています。しかし、本州から離れた島では、農業や漁業以外の産業は成り立ちにくく、台風がひんぱんに襲来する気候条件から考えると、他の作物への転換も難しいのです。また、サトウキビの生産が衰退すれば、それに関連する地域の製糖業や菓子製造業など様々な産業にも影響が及びます。条件不利地域に大きなしわ寄せがくるTPPは、日本の離島のくらしも一変させてしまうおそれがあります。最悪の場合、無人島化してしまうと、その周辺にある海洋資源や、島そのものを外国に狙われてしまう可能性もあるのです。

(監修/東京大学大学院教授 鈴木宣弘)



## 祝 創立60周年記念式典 JA上川地区女性協議会

12月11、12日、ロワジールホテル（旭川市）でJA上川地区女性協議会創立60周年記念式典が開催され、上川管内から130名が集まり当女性部からも10名が参加しました。

記念式典では、各単組の活動報告や協議会の経過報告、協議会歴代役員への表彰などが行われ、記念講演では、『笑う門には福来る』をテーマに、音楽療法士高本恭子さんの音楽を使った「笑いあり涙あり」の楽しい講演も行われ、その後の祝賀会でも各地区のアトラクションで会場は盛り上がりました。

翌日にも、「旭川厚生病院を上手にご利用いただくために」・「JA運営への参画について」などの研修が行われ、仲間と共に充実した2日間を過ごしました。



## あの家の自慢料理を我が家でも…!! 第5回元気な食をいただきますinあいべつ



12月5日、第5回元気な食をいただきますinあいべつが本所で開催され、女性部愛別支部の部員44名が参加しました。

藤原部長の「他の家で食べられている食事を味わって、我が家での食事を考える参考にしてほしい」との挨拶で始まり、部員が持ち寄った漬物やサラダ、お菓子など合わせて10品以上を味わいました。材料や調理法を解説する時間も設けられ、熱心にメモを取る人の姿も見られました。

更に、参加者が持ち寄ったものを景品にしたビンゴゲームも催され、大いに盛り上がりました。



## 料理を通して広がる交流の輪… 平成25年度JA女性部フレッシュミズ交流会

11月27日、JA女性部フレッシュミズ交流会がときわ市民ホール（旭川市）で上川管内から34名が集まり開催され、当フレッシュミズ部員2名も参加しました。

交流会は「クリスマス料理」と題し、宮川家庭料理教室の指導の下、クリスマスにちなんだ料理を4品作りしました。どれも家庭で簡単にできるのに華やかな料理で、参加者からは自宅でも子供たちに作ってあげたいとの声が上がっていました。

地区の女性協議会の役員の方々の託児サービスもあり、小さなお子様がいても参加できる交流会ですので、来年は更にたくさんの方の参加をお待ちしております。





小・中学生以来の体力測定…!?  
**冬の体力測定**

11月29日、蔵らで愛別町青年会議が主催する「冬の体力測定」が開催され、青年部愛別支部部員が参加しました。

「体力測定は小・中学生以来…」という人もいる中、握力や背筋、前屈、立ち幅跳び、上体反らしの5種目を、昔を思い出しながら、ちょっと真剣に測定をしていました。

**中国農業実習生帰国**

中国農業実習生が愛別では5名、上川では10名が期間を終え、帰国しました。愛別では12月6日に本所で送別会・修了式があり、新たな道を歩む実習生へ中国農業研修生受入協議会の古屋会長らがエールを送りました。



信頼される組織を目指して…

**平成25年度コンプライアンス研修会**



役員一同、法令遵守の重要性と実践に向けての方策を学べることができました。

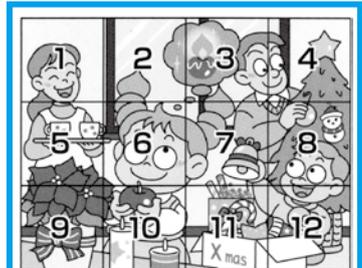
ながら講演しました。

11月22日に本所、25日に支所でコンプライアンス研修会が開催され、当JA役員が出席しました。



**まちがいさがし**

右のイラストには左のイラストと違う部分が5カ所あります。間違っている部分を探しましょう。



先月の答え

- 3…ろうそくの炎が大きい
- 5…ケーキがカップに変わっている
- 8…トナカイの飾りが雪だるまに
- 10…ろうそくの太さが違う
- 11…飾りのステッキがある

JAのあゆみ

12月

- 1日 ウエスタン川端佳事(旭川)
- 3日 第3四半期監事監査(〜6日)
- 愛別町農業法人会町外視察(岩見沢・妹背牛方面)
- TPP国民集会(東京)
- 4日 JA懇談会(愛別地区畜産・きのこ) 定例企画会議
- 5日 JA懇談会(青年部)
- 第10回農家経済対策委員会
- 第5回元気な食をいたたきます(愛別)
- 6日 中国農業実習生送別会・修了式(愛別)
- 9日 JA懇談会(女性部)
- 愛別町と支援協同協議会・上川町畑作園芸振興会合同作況反省会(上川)
- 10日 愛別町畜産振興基金管理組合臨時総会
- 11日 JA上川地区女性協議会創立60周年記念式典・研修大会(〜12日) 旭川
- 愛別町米麦生産振興協議会酒蔵視察(旭川)
- 12日 上川地区連合会長・農事組合長合同会議
- 愛別町農業青色申告会平成25年度税務研修会
- きのこ生産消費振興会販促(札幌千力ホ)
- 13日 平成25年度愛別町農業者年金協議会代議員会及び研修会
- 19日 第11回農家経済対策委員会
- 25日 第11回定例理事会
- 31日 愛別町農業青色申告会年末調整勉強会 年末仕事納め



第10回理事会

平成25年11月26日

■報告事項

1. 組合員の脱退について
2. 委員会報告について
3. 内部審査協議会監査報告について
4. 畜産経営力向上緊急支援リース事業について
5. 農協懇談会について

■議事

1. 組合員の加入報告並びに組合員資格について
2. 組合員の相続並びに譲渡について
3. 組合員の出資減口について
4. 臨時給与の支給基準について
5. 農事組合活動助成金等の支出について
6. 資金の融資について
7. 全国監査機構監査に係る回答について
8. 第3四半期見直し計画について
9. ハウスリース資産の取得・貸付について
10. 平成25年産飼料用米に係る仮渡について

組合員のうごき

(平成25年11月26日現在)

正組合員戸数	396戸
組合員数	2,652名
うち正組合員数	614名
うち正団体数	36団体
うち准組合員数	2,038名
うち准団体数	74団体

Information

記帳と帳簿書類の保存について

平成26年1月から、記帳・帳簿等の保存制度対象者が拡大されます

個人の白色申告者のうち前々年分あるいは前年分の事業所得、不動産所得または山林所得の金額の合計額が300万円を超える方に必要とされていた記帳と帳簿書類の保存が、平成26年1月からは、これらの所得を生ずべき業務を行う全ての方(所得税・復興特別所得税の申告の必要がない方を含む)について必要になります。

【詳細・問い合わせ先】

国税庁ホームページ (<http://www.nta.go.jp>)  
旭川東税務署 (0166-23-6291)

※電話で問い合わせる場合は自動音声に従って「2」を選択後、所得税担当にお問い合わせください。

今月号の表紙

大雪山連峰を望む

(旭ヶ丘地区)



● 職員の自動車運転中による携帯電話の使用について ●

自動車の運転中に携帯電話を手を持って使用する事は片手運転となり、運転操作が不安定となる事や会話に気が取られ運転に必要な周囲の状況に対する注意を払う事が困難となり特に危険な行為であるため道路交通法で禁止されています。

当然、職員に対して着信があった場合、道路状況に応じ安全に車を停車させてから応答する事になっております。

以上の事から、担当の携帯電話に連絡をいただく際に応答できない状況においてはご迷惑をお掛けする場合がございます。安全の維持のため誠に申し訳ありませんが、ご理解とご協力の程宜しく願い申し上げます。なお、担当への着信から応答までに多少時間が要する事についても重ねてご了承願います。

● 後職員一同  
安全運転に努めます!!



運転中の携帯電話の使用はできません。  
運転中や駐車中であっても、安全に運転が確保されるまで、携帯電話の使用はできません。

1月31日(金)棚卸による  
営業時間変更のお知らせ

● 事業年度末の棚卸業務により、営業時間を変更させていただきます。皆様にご不便をおかけしますが、ご理解よろしく願い致します。

- 資材店舗(本所・支所)・農機センター 休業
- Aコープ(あいべつ・かみかわ) 9:00~15:00短縮営業
- ホクレン 給油所(愛別・上川) 8:00~17:00短縮営業